

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）釜石・遠野ブロック 会議録

【釜石・遠野ブロック：釜石市、遠野市、大槌町】

○ 日 時：令和2年9月4日（金）10時00分～12時00分

○ 場 所：大槌町中央公民館 3階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

釜石市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

遠野市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

大槌町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

沿岸南部教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般8人、報道2人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

（1）後期計画の基本的な考え方等について

（2）後期計画の具体的な取組について

【県教委】

- ・ まず、「後期計画の基本的な考え方等」と「後期計画の具体的な取組」について、事務局から説明させていただき、その後、御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No.1「新たな県立高等学校再編計画後期計画（案）の概要」、資料No.3「地域検討会議等で寄せられた意見の反映状況等」に基づき説明。

【沼田 大槌町教育委員会教育長】

- ・ 資料No.1の「6 後期計画の具体的な取組」の（1）に記載されている「一定の入学者のいる1学級校を維持」について、もう少し説明をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 資料No.1の「7 高校再編に関する基準等」の（1）に、1学級校に対する基準をお示ししている。「1学級校については、直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止、統合」としており、21人以上の入学者を確保できれば維持されるということである。ただし、直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合に直ちに募集を停止するというのではなく、地域の方々と意見交換を行い、募集停止や統合について検討していきたいと考えているものである。
- ・ 同じく、資料No.1「7 高校再編に関する基準等」の（2）では、「入学者が1学級定員（40人）を上回る欠員が生じた場合には、学級減を検討」という表現で「岩手県立高等学校の管理運営に関する規則」の適用についてお示ししているが、これは募集定員が2学級以上ある場合に適用される基準であり、1学級校の基準とは異なるものである。

【本田 遠野市長】

- ・ 前期計画で統合が延期されていた遠野高校と遠野緑峰高校について、計画から除外していただいた。地方創生の理念に基づき、市民が一丸となって両校の存続に向けて努力してきたことを認めていただいたことに感謝申し上げる。今後も、学校と地域が連携しながら両校の魅力向上に取り組んで参りたい。
- ・ 資料にも示されているとおり、中学校卒業予定者の減少や少子化、人口減少の状況が深刻になっていることは承知している。10年後、20年後を見据えて、場合によってはブロックを越えた市町村との意見交換を行いながら、高校教育の在り方について、国の施策の動向も見据えて考えていくことが大切であると感じている。
- ・ 地方創生の観点から、地域に根差した高校を存続させていくためにも、これまでの基準を見直し、少人数学級の導入等、新たな仕組み「岩手モデル」の構築が欠かせないものと考えている。
- ・ 教育誌でも取り上げられるように、岩手県の産業や風土には、県民には知られていない魅力が多くあり、まだ底力を秘めていると考える。岩手で育まれた不易の教育基盤を守りつつ、今後の変化に対応した教育環境の整備について、県としてのビジョンを後期計画にもしっかり示していただきたい。

【野田 釜石市長】

- ・ 後期計画案については、それぞれの地域が抱えている様々な課題を取り上げ、それぞれの地域の要望に対応した内容になっているということが従前にはない大きな転換であり、評価させていただきたい。今後は地域の実情や地域の声をよく踏まえて計画の推進に取り組んでいただきたい。
- ・ 県南地域においては、ものづくり産業の振興に向けた高校再編が進むようであるが、ものづくりの歴史が長い本市としても、これまでに県に対して産業振興に向けた環境整備について、要望してきたところである。当地域の産業教育や産業振興の今後の方向性について、県教育委員会の見解を伺いたい。

【県教委】

- ・ これまでに釜石商工高校への専攻科の設置要望をいただいているところである。現在、当ブロックに設置されている釜石商工高校の工業科は、資料No.4-2にもお示ししているように欠員が多く生じている状況にあることから、まずはこの状況の改善に向けて、地域の中学生や小学生に対して、工業の学びやものづくりの魅力等を伝えていくというソフト面での取組が大切であると考えている。
- ・ 同校への専攻科の設置については、黒沢尻工業高校専攻科の状況等を見守りながら検討して参りたいと考えている。

【野田 釜石市長】

- ・ 釜石商工高校の生徒に限ったことではなく、釜石・遠野ブロックの生徒にとって、高校卒業後にさらに深く工業を学ぶ環境の整備が必要であると考えていることから、同校への専攻科の設置を要望しているものである。同校の志願者数とは別の視点で、専攻科の設置を検討していただければありがたい。
- ・ 県の企業誘致が奏功して新たな企業も進出しているところであり、工業の専門知識を持った人材の需要も高まることが予想される。県の施策と歩調を合わせ、県内就職を希望する生徒が工業の専門的な知識や技術を習得できる環境整備を当ブロックでも行うことにより、広く県全体の産業振興に貢献する人材育成を図ることができるものと考えている。

- ・ 当市として、長年、産業振興に向けた環境整備を県に対して要望しており、ぜひ教育全般について様々な議論ができる場を設けていただくよう検討していただきたい。

【平野 大槌町長】

- ・ 後期計画案の総論については評価をしたい。また、大槌高校の魅力化推進事業について、県には多大な御理解と御協力をいただいております、感謝申し上げます。
- ・ 8月20日に、「誰一人取り残すことのない『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」として、中央教育審議会答申案の作成に向けた骨子（案）が示されたところである。後期計画の策定に向けて、前期計画を策定した平成28年から変化している社会情勢等については、十分に検証していただきたい。
- ・ コロナ禍にあつて、国の施策としてもGIGAスクール構想事業が大きく前倒しされていることが重要な転換点であると受け止めており、学校規模が担保されないと教育の質が確保されないとする県教育委員会の視点は改めるべきではないかと考える。オンライン教育を積極的に取り入れることにより、小規模校における教育の質を保証し、さらに探究的に学ぶフィールドを確保していくことによって、より質の高い教育を行う環境が構築されるのではないかと考える。オンライン教育の充実、及び、探究的な学びを行うことができる人材の育成に努めていただきたいと強く願う。
- ・ 今般の後期計画案では、ICT環境の整備や、より良い高校教育の実現に向けた具体的な取組をお示ししていただいたところであるが、そのためには教職員や専門職員の適切な配置が不可欠なものであると考える。
- ・ 教職員の働き方改革の観点からも、探究的な学びの充実をサポートする、地域と学校を結ぶ専門的な職員の配置を検討していただきたい。地域、行政、学校の三者を繋ぐ専門的な職員の配置を県単独で行うことは難しいことであると推測されることから、町としても協力していきたいと考えている。
- ・ 少子化の状況にあつて、高校再編を議論する際は学校統合に焦点が集中しがちであるが、生徒数に対応するための議論に終始することなく、県と市町村が連携しながら魅力ある高校をつくるための好機であると前向きに捉えていきたいと考えているところである。今般の後期計画が全国に先駆けたモデルとなるよう、新たな岩手型の教育を構築するためにチャレンジをするという強い意気込みを持って、計画策定に臨んでいただきたい。

【高木 大槌町PTA連合会会長】

- ・ 小規模校で部活動の選択肢が限定されることはやむを得ないことであるが、近隣の学校との合同チームを編成した際に、大会出場が制限されるということは大きな問題であると考えている。中学生が高校を選択する上で障害となっていることを解決していくという視点も大切ではないかと考える。
- ・ 不登校にある生徒等、登校が困難な生徒であっても、オンライン授業と対面形式の授業を組み合わせながら単位が修得でき、高校を卒業できる環境整備を行い、一人の生徒を大切にするという視点を忘れないでいただきたい。
- ・ 高校生がいるということだけで地域にとってはありがたいことであり、地方創生のために地域の高校は不可欠であると考えている。
- ・ 予算の問題もあると思うが、教員の多忙化解消や専門職員の配置に向けて取り組んでいただきたい。地域ボランティアの人材資源の活用も一案であると考えている。

【菅原 遠野市産業界関係者代表】

- ・ 遠野市内の2校を存続していただき、大変ありがたく思う。農業団体としても、今後も、両

校を全面的にバックアップしていきたいと考えている。

- ・ 遠野市は県に対して、県外からの生徒受入れの拡充について要望しているところである。他方で、遠野市には県有林や市有林等、多くの森林があり、林業も盛んである。県外からの生徒受入れを実施している遠野緑峰高校生産技術科に林業等について学ぶコースを新たに設置し、学びの充実や魅力向上に向けて産・官・学が協力体制を築いていくことにより、同科の定員を充足させることが可能であると考えている。

【県教委】

- ・ 現在、県内において林業の学びを行っているのは盛岡農業高校と久慈東高校のみである。御提案いただいたことについては、今後、研究させていただきたい。

【佐々木 榊栄組代表取締役】

- ・ 後期計画案は、これまで4回にわたる地域検討会議で出された地域からの様々な意見を真摯に受け止めて反映しており、高く評価する。
- ・ 高校の魅力化ということが本会議でも焦点となっているが、具体的にどのように取り組むかということは難しい課題であると感じている。地域資源を発掘し、磨いていくことが大切なのではないか。その着実な推進が魅力化を促進していくと考えているところである。
- ・ 遠野市は、東京 2020 パラリンピック 5人制サッカー競技におけるブラジル代表チームのホストタウンとして、様々な取組を推進しているところである。市内の小中高校が連携しながら取り組むことにより、ブラジル代表チームやその関係者から高い評価をいただいております、そのような高評価をいただいているということや、国内外に向けて自分たちの取組を情報発信していくことで、高校生たちは自信を持ち、自分たちの地域の魅力を高めているという誇りを持つようになってきている。このような取組も、高校の魅力化に繋がっていくのではないかと期待しているところである。
- ・ 遠野市内では、産・官・学が連携することにより、インターンシップが活発化しており、地元就職する若者の増加に繋がっている。今後も継続していきたいと考えている。
- ・ 民間企業としても、会社独自の技術や人材育成のノウハウを積極的に教育現場に提供していき、生徒の学ぶ意欲の向上や教育環境の充実、及び、学校の魅力向上に貢献していきたいと考えている。

【沼田 大槌町教育委員会教育長】

- ・ 大槌町では、「故郷が学びを育てるまちづくり」というテーマのもと、0歳から18歳までの期間を学びを保障する期間として定め、町教育委員会の学務課と生涯学習課が主導して教育の充実に取り組んでいる。学びの内容については、町内の義務教育学校と大槌高校の教員が協力しながら、一貫した教育課程の編成について共同研究を行っているところである。「ふるさと科」と各教科の学習内容を関連させながら、児童生徒の学力向上を図ること、並びに、地域と学校をつなぐ、地域産業と学校をつなぐということを目指して教育課程の開発に取り組んでいるところである。
- ・ 地域の歴史や産業構造、地域産業を支えている住民の活動内容等、地域のことについて教員が深く知ることによって、より良い教育課程の開発に取り組む基盤ができ、その教育課程に則り、児童生徒へのより良い指導ができるものと考えており、教員を対象とした研修も行っているところである。
- ・ 地域と学校が緊密に連携した取組を行うことにより、大槌高校を卒業した生徒が将来的にどのように地域に貢献する人材となってくれるかということは、今後の高校教育の在り方を検討する際の材料になるものと考えている。

- ・ 地域に高校が存在することによって、地域や地域産業、義務教育との連携も可能となるものであり、将来の地域を担う人材育成も可能となるものと考えているところである。

【久保 釜石地方森林組合代表理事組合長】

- ・ 子どもたちは、地域の産業や企業のことについて理解が不足していると感じており、小中学生向けの職場見学や講演会、高校生のインターンシップ等のキャリア教育の取組を強化し、地域の状況について知る機会を設けることが大切であると考えている。
- ・ インターンシップの受入れを行っている中で、生徒は、将来のことをよく考える力が高い傾向にあると感じている。地域の産業や企業について知識を持つことにより、自らの人生設計を助けるものと考えている。
- ・ 林業分野に就業する場合でも、資格が必要な状況になってきている。林業に興味を持っていただいたとしても、「林業が好き」というだけでは従事することはできないことから、資格が取得できる環境整備が必要である。
- ・ 魅力化や魅力ある学校づくりという言葉が独り歩きするだけでなく、各学校が「個性」をよく把握し、中学生や地域に対してわかりやすく適切に情報発信していくことが大切であると考えている。そのために、在校生が感じている学校の魅力を吸い上げることも一案ではないか。

【松田 遠野市PTA連合会会長】

- ・ 今般のコロナ禍にあっても、多くの教育関係者の御尽力により、充実した教育環境を整えてくださっていることに対し、保護者として深く感謝申し上げます。
- ・ 後期計画案の作成に当たっては、これまでの地域検討会議等の意見や地域の声を十分に汲み取っていただき感謝申し上げます。
- ・ 生徒数の減少は事実であり、それに伴って学校統合等は免れない状況であることも理解しているところである。他方で、子どもたちに希望を持たせ、応援していくことが親の務めであり、多くの子どもたちに教育の機会を保障し、教育環境を整えることがPTAとしての役目であると考えているところである。
- ・ これまでの高校再編における様々な意見交換の場で県教育委員会から示されている内容は、数字で表される一律の基準によるものであり、岩手独自の高校再編の取組とはどういうものなのかが感じられず残念である。
- ・ 資料No.2の13頁に「岩手県高等学校の管理運営に関する規則」の記載があり、この規則は昭和32年に定められているということであるが、60年も前の規則が現在まで見直されることなく運用されていることについて、考えを伺いたい。
- ・ 後期計画案の見直しができるものならば、古い規則によって定められている部分について再検討をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 当該規則の運用に当たっては、規定された欠員が生じた場合に直ちに学級減を行うものではなく、中学校卒業予定者の推移や地域の状況等を考慮している。
- ・ 各高校の欠員が多いと高校入試の難易度が下がり、中学生の学習意欲の低下を招くことを懸念する御意見もいただいているところであり、適正な学校規模を維持できるように当該規則を運用しているものである。
- ・ 本県のように、小規模校が多数設置されているのは全国的にも稀である。各市町村における地方創生に向けた取組の現状に鑑み、小規模であっても学校が地域に果たす役割の大きさに配慮した結果である。
- ・ 第2回の地域検討会議においても議論させていただいたところであるが、現状の法制度の中

で教員数を最大限確保することにより、生徒にとってより良い学習環境に繋げていきたいと考えている。

【小向 遠野市校長会会長（遠野市立遠野中学校長）】

- ・ 後期計画案には、これまでの地域検討会議等の意見や地域の声を十分に汲み取っていただき敬意を表す。また、遠野高校と遠野緑峰高校を統合の対象外としたことについても深く感謝申し上げる。
- ・ 遠野高校は今年度入試で大きく欠員が生じており、次年度も同様の状況になるのではないかと懸念しているところである。他方で、参考資料No.3の5頁に示されている中学校卒業生数の推移によると、年によって増減があることが見て取れることから、2年連続して40人以上の欠員が生じたからといって、安易に同校の学級減を行わないよう御配慮いただきたい。
- ・ 他県では、高校入試における学区制の廃止が進んでいると伺っている。中学生に対して公平に受検機会を与える観点から、本県でも学区制の廃止を検討していただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No.2の14頁に「岩手県高等学校の管理運営に関する規則」の条文の抜粋が記載されているが、「2年連続して」等の表現はなく、さらに、「学級数を減ずることがある」という表現が用いられていることを御確認いただきたい。また、規則を運用する上では、中学校卒業予定者の推移や地域の状況等を考慮しているものである。

【菊池 遠野市教育委員会教育長】

- ・ 後期計画案の作成に当たっては、丁寧な検討をしていただき、感謝申し上げます。
- ・ 後期計画期間に相当する今後の5年間は、新型コロナウイルス感染症対応、GIGAスクール構想の推進、普通科再編等、高校教育において大きな変革が起こるものと捉えている。県教育委員会にあっては、今後の様々な変化に対応するための県としての取組の方向性について、適時適切に市町村に提示していただきたい。
- ・ 当市でも、地方創生に向けて、地域や地域産業、学校との連携を推進しているところであるが、このような市町村の取組を受けて、県としての地方創生に向けた取組の方向性を市町村に提示していただきたい。

【高橋 釜石市教育委員会教育長】

- ・ 後期計画案の作成に当たって丁寧な検討をしていただき、感謝申し上げます。
- ・ 今後は、国の施策の動向も見据えて整合性を図りながら、子どもたちのニーズをしっかりと捉えて、高校再編の取組を進めていただきたい。
- ・ 地域の高校が魅力ある教育活動を展開し、その魅力を十分に発信できるよう市としても支援していきたいと考えているところであるが、県教育委員会にあっては、各高校の環境整備を行う等の支援をお願いしたい。

【本田 遠野市長】

- ・ 参考資料No.4-2にも示されているように、少子化による志願者数の減少により、欠員が生じている高校が多く見られる。1学級40人という定員にこだわることなく、県として新たな基準を設けることにより、志願倍率を上昇させることができ、中学生の学習意欲も向上するものとする。
- ・ これまでも申し上げているように、従来の価値観にとらわれることなく、新たな基準による岩手モデルの構築に向けた好機が訪れているものとする。

【県教委】

- ・ 熱心な意見交換をいただき、感謝申し上げます。
- ・ 後期計画案では、当ブロックにおける計画的な学級減や統合等を示していないところ。後期計画案の基本的な考え方等に対して、概ね肯定的な御意見をいただくとともに、今後の高校教育の在り方について様々な御提言をいただいた。
- ・ 高校再編は、次年度から始まる後期計画で終わりではなく、今後も継続して取り組んでいかなければならないものである。本日いただいた御意見、御提言を次期計画にも参考とさせていただきたい。
- ・ 今年度内を目途に、後期計画を策定したいと考えており、本日いただいた様々な御意見、御提言を十分に踏まえていく所存である。
- ・ 今後とも、本県教育の振興のため、一層の御理解と御協力を賜るようお願い申し上げます。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第4回)【釜石・遠野ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	釜石市	野田 武 則	釜石市長	
2		二宮 雄 岳	(公財)釜石・大槌地域産業育成センター 専務理事	
3		久保 知 久	釜石地方森林組合 代表理事組合長	
4		高橋 勝	釜石市教育委員会 教育長	
5	遠野市	本田 敏 秋	遠野市長	
6		菅原 一 雄	遠野市産業関係者 代表	
7		佐々木 栄 洋	㈱栄組 代表取締役	
8		松田 惠 市	遠野市PTA連合会 会長	
9		菊池 広 親	遠野市教育委員会 教育長	
10	大槌町	平野 公 三	大槌町長	
11		菊池 良 一	大槌商工会 会長	
12		平野 榮 紀	新おおつち漁業協同組合 代表理事組合長	
13		高木 正 基	大槌町PTA連合会 会長	
14		沼田 義 孝	大槌町教育委員会 教育長	
15	地区中学校長代表	小 向 敏 夫	遠野市校長会 会長 (遠野市立遠野中学校長)	
16		及 川 正 宏	釜石地区小中学校長会 会長 (釜石市立大平中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
17	県議会議員	工藤 勝 子	岩手県議会議員	
18		岩崎 友 一	岩手県議会議員	
19		小野 共	岩手県議会議員	
20	県立高等学校	鈴木 広 樹	釜石高等学校長	
21		菊池 勝 彦	釜石商工高等学校長	
22		三浦 立	遠野高等学校長	
23		菊池 勇	遠野緑峰高等学校長	
24		瀬戸 和 彦	大槌高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
25	県教育委員会 事務局等	加藤 暢 之	沿岸南部教育事務所長	
26		桂 康 博	沿岸南部教育事務所主任指導主事	
27		梅津 久仁宏	教育次長	
28		木村 克 則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
29		須川 和 紀	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
30		森田 竜 平	学校調整課高校改革課長	
31		谷地 信 治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
32		市丸 成 彦	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
33		小野寺 一 浩	学校調整課高校改革担当主任指導主事	